

長野市立豊野中学校

3学年 総合的な学習の時間 単元名 生き方を求めて「未来を開く読書」

単元設定の理由

豊野中学校では、生徒会図書部（図書委員会）の活動がさかんで、本をたくさん読む生徒、本を借りる生徒も多く、昼休みも図書室はにぎわいを見せています。毎日の朝読書の時間になると、どのクラスでも自然に話し声がやみ、全員が読書に集中する雰囲気があります。係でも本を読むことに対する意識づけを積極的に行ってきま

した。
ところが、昨年度末に卒業生に調査した「豊中この一冊」では、上位にライトノベルの作品、携帯小説、ミステリーばかりが挙がり、良書として推薦した図書を「心に残った本」として挙げた生徒は本当に少ないということがわかりました。もちろん、娯楽としてライトノベルなどの作品を読むことは否定しませんが、感受性に富む中学生期に、自己を高める本、自己変革に影響を与えるような本を、自ら選び、読み、読書によって未来が開かれていくこともあるのだと実感するのは、これからの人生にとって大変貴重なことだと考えます。「生き方を求めて」というテーマで進路学習が進んできている中学三年生のこの時期に、

***自分の周囲の人たちから、読書することによって考え方や生き方が変わった本を紹介してもらい、何冊かを読んで感想を交流する活動**

***図書館の本の中から、自分を成長させてくれる本を選んで「次に読む本」のリストを作る活動**

などを行うことで、自分の未来の生き方に役立てていかせたいと考え、この単元を設定しました。

本時まで

- ① 読書によって人生が変わった人のエピソードについて学びました。
② 高校の司書の先生方に協力していただき、高校生の「私を変えた一冊の本」リストを読んで興味を持ちました。
自分たちでも身近な人にお聞きし

て、「私を変えた一冊の本」のリストを作りました。

- ③ 自分のテーマ（自分はどう変わりたいか）を考え、テーマに合っていそうな本をリストから選び、実際に読み、後日、グループ内で、読んだ本の感想を発表し合いました。

本時

学習問題

「なりたい自分になるために、次に読むべき本はどの本だろう。」

学習課題

「図書館の本から、柔軟な発想、いろいろな視点で自分たちのグループのテーマと関連しそうな本を探し、次に読む三冊を決めよう。」



私を変えたこの一冊								
	学年 級別	読んだ 時	どんな自分が	どんな自分に	本の分類	書名	作者	エピソードその他
高校生	2年	第1	一度の行動で結果を出そうと考える自分	日々の積み重ねで結果を出そうと考える自分に		夢をかなえるゾウ	水野敬也	ゾウキャラクターという関係者のゾウが 加もしい。
	3年	第3		脅かしなみや考え方から幸せに近づけていく自分		夢をかなえるゾウ	水野敬也	
		第2	歴史に全く興味がなく、ただただ一日一日を過ごしていた自分	歴史に興味が高まり、本を読むことが趣味になった自分		はるか遠く彼方の君へ	安部知幸	二人の現代高校生が学生時代にク イズスリッパしてしまっ。
	2年	第1	お金について全く知らなかった自分	お金の価値について知れた自分		資本論	カール・マルクス	
	2年	第2か 第3	競争について勝っていた自分	競争が勝力者にならないようにするにはどうしたらよいか 考えるようになった。		永遠の0	荻原浩典	
	2年	第2		前向きにいろいろなことに取り組もうという気持ちに なった。		チア男子	藤井リョウ	
	3年	第2	母に対して苛立ちを感じていた自分	自分が本当に喜まれた瞬間にあることを感じ、母に対する ストレスも自然に消えた。		母性	渡辺なつ	



授業では、まず、司書の先生のブックトークをお聞きし、テーマに合った本を探すための柔軟な発想を聞いた後、図書館の棚をくまなく

見て回り、自分のテーマに合っていそうな本を三冊探しました。



続いて、グループごとに、自分が選んだ三冊の紹介、および、なぜその本を選んだかについて発表し、意見交換をしました。

思いがけないジャンルから、自分のテーマに関連しそうな本を探し出すことができたり、仲間の選んだ本を読みたくなったり、読書の幅を広げるための大切な時間となりました。

最後は、仲間との意見交換を参考にして、なりたい自分になるための「次の三冊」を決定し、授業の振り返りを書きました。



授業の振り返りより

- ・違う視点から自分のテーマを見つけ出したら、いろいろな本を見つけることができたのでよかった。「次の三冊」を読んで、なりたい自分に一步近づけるようになっていきたいと思った。(S)
- ・やはり図書館には本がたくさんあって、いっぱい読めば、考えもたくさん持てて、視野が広がるかなと思いました。(K)
- ・読みたいと思える本がたくさん見つかって良かったです。グループ内での発表を聞いて、そこからも読みたい本を見つけられて良かったです。(M)
- ・自分の選んだ本が班の人に「読んでみたい」と興味をもってもらえたり、共感してもらえて、とてもうれしかった。また、読みたい本が増えたので、図書館に行くのが楽しみになった。(M)



参観者の感想より

- ・司書の先生のブックトークがとても良かったです。授業者以外の人が話をしてくれることは、とても新鮮である上、とてもやさしい雰囲気でもわかりやすいトークだったので、生徒たちの心をつかんでいたと思います。選んでいる本もいろんな分類からだったので、視点を広げて選ぶことを実感していると思いました。
- ・「未来を開く読書」という単元設定は、三年生にとって、自己の生き方を考えるととてもよい授業だと思いました。小学校でも実践してみたい単元です。
- ・自分たちの選んだ本について、題名、分類番号、選んだ理由をしっかりと述べ、話し合いができていた。どの子も最終的に3冊選べていた。話し合いの手引きも有効だった。
- ・学校司書と学担との協同のブックトークは、司書の専門性を学担がうまく生徒につなげていてよかった。
- ・配架や展示の工夫が多く見られ、蔵書内容、構成も素晴らしいです。中学生が読みたくなる本がたくさんありました。

本時以降

- ・本時以降、生徒たちは選んだ本を朝読書の時間に読み、2月にもう一度感想発表会を行いました。班で選ばれた代表は、フリップを使ってクラス全員の前で感想および、自分のテーマに合っていたかどうかの振り返りを発表しました。どれも、聞き応えのある、いい発表になりました。今年度末に卒業生が書いた「豊中この一冊」には、この単元で彼らが読んだ本がたくさん挙げられていました。